

基調講演登壇者



元文化庁長官
青柳 正規 氏
あおやぎ まさのり

写真提供: 多摩美術大学

1944年、大連生まれ。古代ローマ美術・考古学を専攻。東京大学文学部教授、国立西洋美術館館長、文化庁長官などを務め、現在、東京大学名誉教授、日本学士院会員、山梨県立美術館館長、学校法人多摩美術大学理事長、奈良県立橿原考古学研究所所長、石川県立美術館館長、他。50年に亘りイタリアの古代ローマの遺跡発掘に携わる。著書は、『皇帝たちの都ローマ』、『ローマ帝国』、『文化立国論』、『人類文明の黎明と暮れ方』他。

講演登壇者・パネルディスカッションコメンテーター



筑波大学名誉教授
稲葉 信子 氏
いなば のぶこ

国際機関ICCROM事務局長特別アドバイザー。工学博士。専門は建築学・世界遺産学。1991～2002文化庁文化財保護部建造物課(うち2000-2002国際機関ICCROM派遣)、2002-2008独立行政法人東京文化財研究所文化遺産国際協力センター、2008-2019筑波大学大学院世界遺産専攻。世界遺産については、日本が世界遺産条約を批准した1992年からユネスコ世界遺産委員会での条約運営に関わる総合的な議論、個別の世界遺産の登録、保全のための仕事に国内外で関わってきている。



京都女子大学教授
母利 美和 氏
もり よしかず

専門は近世藩政史、幕末政治史。同志社大学文学部、同大学院文学研究科を経て、昭和60年より彦根市教育委員会博物館建設準備室技術職員、彦根城博物館学芸員を経て、平成15年より京都女子大学文学部助教授、平成20年より現職。主な著書に『幕末維新の個性6 井伊直弼』『安政の大獄の真実』『江戸時代近江の商いと暮らし 湖国の歴史資料を読む』など。現在、彦根城世界遺産登録推進にかかる学術会議・学術検討委員会学術検討委員において、彦根藩に関する深い知見で貢献。

パネルディスカッションコーディネーター



京都府立大学名誉教授
関西国際大学教授
宗田 好史 氏
むねた よしふみ

浜松市生まれ。法政大学大学院修士、ピサ大学、ローマ大学大学院をへて、イタリア歴史的都市再生の研究で工学博士(京都大学)。国際連合地域開発センターを経て、1993年から京都府立大学、2016年副学長、2022年名誉教授、2022年から関西国際大学教授。国際記念物遺跡会議(ICOMOS)国内委員、京都市景観まちづくりセンター理事、(特)京都府地球温暖化防止活動推進センター理事、(特)京町家再生研究会理事など。

パネリスト



国土舘大学名誉教授
日本イコモス委員長
岡田 保良 氏
おかだ やすよし

1949年大阪市生まれ。国土舘大学名誉教授。京都大学博士(工学)。専門は西アジア建築史、文化遺産学。京都大学工学部助手を経て1980年より国土舘大学イラク古代文化研究所講師、1995年同教授。2005～2011年イコモス本部執行委員。2019年から日本イコモス国内委員会委員長。主な著書に『古代メソポタミアの宗教建築』、『現代イラクを知るための60章』、『世界文化遺産の思想』など。



東京理科大学客員教授
三宅 理一 氏
みやけ りいち

1948年東京生まれ。東京大学建築学科ならびにパリ・エコール・デ・ボザール卒業。工学博士。芝浦工業大学、慶應義塾大学、パリ国立工芸院にて教鞭をとり、藤女子大学副学長を経て現職。建築史、遺産学を専攻。プロボタ修道院(ルーマニア)、初期清朝の都市遺産(中国)など遺産保護活動に携わる。瀋陽市榮譽市民、フランス政府学術教育功労勲章。『モルドヴァの世界遺産とその修復』、『限界デザイン』、『境界線から考える都市と建築』など著書多数。



東京外国語大学教授
吉田 ゆり子 氏
よしだ ゆりこ

専門は日本近世史。中世近世移行期の地域社会の変容、兵農分離を、地域に根ざした視点から解き明かす研究方法をとる。お茶の水女子大学大学院人間文化研究科を経て、東京大学人文社会系研究科にて博士学位(文学)取得。現在は東京外国語大学文書館長、海外事情研究所所長、公益財団法人文化財建造物保存技術協会評議員、文化庁中世城館・近世城郭検討会委員、他。主な著書に『兵と農の分離』、『兵農分離と地域社会』など。

パネルディスカッションコメンテーター



文化庁 文化財調査官
鈴木 地平 氏
すずき ちへい

昭和55年生まれ、滋賀県大津市出身。専門は歴史地理学、文化遺産学。京都大学文学部、同大学院文学研究科を経て、平成17年より文化庁技官(文化的景観)、平成25年高崎経済大学大学院地域政策研究科修了、博士(地域政策学)、平成27年より現職。主な著作に『景観史と歴史地理学』、『世界文化遺産の思想』、『世界遺産の日本史』(いずれも分担執筆)など。

彦根城 世界遺産 登録推進 シンポジウム

日時 | 令和4年7月3日(日) 13:00-16:30 (開場12:30)

場所 | 建築会館ホール(東京都港区芝五丁目26-20)

入場無料(先着100名/事前申込制)

世界史における 近世城郭の意義

彦根城の世界遺産登録については、平成4年に暫定リストに記載されて以降約30年が経過した。その間、姫路城との差別化などの課題を解決し、令和6年の登録実現という具体的な目標に向かって、今、大きく歩みを進めている。今回のシンポジウムでは、国内の歴史研究者や建築史研究者、世界遺産の専門家が集い、彦根城の世界遺産としての価値について議論を繰り広げる。この議論によって、彦根城の顕著な普遍的価値のさらなる探求を進め、世界遺産として価値を明確にする。そして、今、彦根城を世界遺産に登録する意義を、国内外において広く共有する。



本シンポジウムの内容は
後日、 **YouTube** にて配信予定
◀◀ 滋賀県文化財保護課 公式YouTubeチャンネル

主催 / 彦根城世界遺産登録推進協議会
共催 / 滋賀県・彦根市・滋賀県教育委員会・彦根市教育委員会
後援 / 一般社団法人 日本イコモス国内委員会
一般社団法人 日本建築学会



-彦根城世界遺産登録に向けて-

彦根城の顕著な普遍的価値(OUV)は、江戸時代、「250年間に及ぶ安定の時代」に注目する。

16世紀の世界では、新しい技術、知識、富の移動が活性化し、これまでの国や地域の秩序を大きく揺さぶった。これに対し、多くの国では、17世紀後半までにそれぞれの国の枠組みを再定義し、既存の政治体制を再編することで、それぞれ個性的な社会を育み、文化や伝統を生み出す時代へと移行した。

日本では17世紀初頭、江戸時代が該当する。江戸時代は、地域相互やムラ相互などの重層化した戦乱状態に終止符を打つとともに、新しい国の枠組みを形成することで成立した。この江戸時代は、その後250年間、安定的に維持され、豊かな日本文化を形成する基層を形成した。すなわち、江戸時代は17世紀の世界的な秩序の再編期の顕著な事例なのである。

この江戸時代の統治拠点として築造され、利用され続けたのが近世城郭である。近世城郭は、石垣・水堀によって周辺地域から明確に隔絶することで、その政権としての独立性を確保し、内部はこれまでの城郭にはなかった大名と全ての重臣が集住する特徴的な構造を採用することで、混乱の発生を排除する体制を固定化した。さらに、天守や石垣などの織りなす象徴的な外観によって、地域社会を安定させる権威と責任の所在を可視化した。



名勝・玄宮園から天守を臨む

すなわち、近世城郭は、17世紀の世界的な秩序の再編成に対応し、日本において築造された、その構造と外観によって、政治体制の特徴と、それが安定的に維持された仕組みを具現化する、世界的にも稀有な存在なのである。

その上で彦根城は、江戸幕府の最初に設置された藩の政治拠点であった。また、その城主である井伊家は、この体制の構築に深くかかわるとともに、江戸時代を通じて将軍の補佐役としての地位を維持し続けた。この歴史的な事実によって、彦根城は17世紀前半に理想の姿を規範的に映し出す構造と外観をもって築造され、江戸時代を通じて大きな変化を経ることなく、その構造と外観が維持され続けた、近世城郭の典型、代表例と位置付けられるのだ。

さらに、明治以降には多くの城郭が取り壊されることになったが、彦根城は地域住民の強い要望によって保存が決定し、また、他の城郭とは異なり軍隊施設や行政施設として利用された期間が極めて短く、早くから市民に公開され、市民のシンボルとしての価値を構築した。また、戦争に被災することもなく、現在において最も正しく江戸時代の姿を保存していることによって、地域アイデンティティーの中核として、多くの人々を結びつける存在であり続けている。



上空から見た彦根城

- プログラム -

13:00 開会挨拶 和田裕行 (彦根城世界遺産登録推進協議会副会長、彦根市長)

映像紹介

13:10 基調講演「今、彦根城を世界遺産に登録する意義」青柳 正規氏 元文化庁長官

13:30 講演「江戸時代の平和と彦根城の歴史」母利 美和氏 京都女子大学教授

14:20 講演「彦根城の顕著な普遍的価値とは」稲葉 信子氏 筑波大学名誉教授

- 休憩 -

15:00 パネルディスカッション

コーディネーター

宗田 好史氏 京都府立大学名誉教授
関西国際大学教授

パネリスト

岡田 保良氏 国士舘大学名誉教授
西アジア建築史、文化遺産学

パネリスト

吉田 ゆり子氏 東京外国語大学教授
日本近世史・地域史

コメンテーター

稲葉 信子氏

コメンテーター

母利 美和氏

パネリスト

三宅 理一氏 東京理科大学客員教授
建築史、遺産学

コメンテーター

鈴木地平氏

16:30 閉会

シンポジウムの
参加申込について



応募者多数の場合は先着順となります

【ネット申込】

応募フォームから同伴3名までお申込みいただけます。

フォームに必要事項をご記入ください。

公式HPは左記QRコードか下記URLから。

Peatixアカウントにログインするか、新規登録で

Peatixアカウントを作成してお申込みください。

<https://hikonejo-symposium.peatix.com/>

【ハガキ申込】6/24(金)必着

宛先 〒520-0818 滋賀県大津市西の庄19-10 リンクスビル

株式会社エフエム滋賀 彦根城世界遺産登録推進シンポジウム係

必ず通信面に必要事項(代表者の氏名・3名までの同伴者の氏名・配慮が必要な方はその内容)をご記入ください。



エフエム滋賀
問合せTEL **077-527-0814** (平日9:00~17:00)

※新型コロナウイルス感染症の影響により、内容が変更となる場合がありますので、ご了承ください。